

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0473100212		
法人名	(有)タックス		
事業所名	グループホーム花水月		
所在地	宮城県遠田郡美里町叔廼前22-3		
自己評価作成日	平成 25年9月30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族と同じように接し利用者様の笑顔がみられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年目の「花水月」は民家での宅老所から始まり、家屋の改造を重ねて現在のグループホームになった経緯がある。一般住宅の間取りを残していることから、居室や食堂兼ホールも雰囲気は家庭そのままである。職員は、ホームの自慢と評して「家族のように」「美味しい手作り御飯」「共に支えあう信頼関係」を挙げた。入居者と職員が会話するゆったり感に、穏やかな日常がうかがえた。一人ひとりを尊重し「無理強いしない」ことをケアの基本に置いており、いつも気に掛ける職員が傍に居ることを入居者に伝える「声掛け」を大事にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム花水月)「ユニット名

」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につく所に掲げ、日々の支援を通じ理念を実践する為に申し送りの中でなど振り返る機会を作り日々のケアに取り組んでいる。	これまでの理念(4項目)を、分かり易く簡潔にする視点で1項目を削り、皆で話し合い見直した。中でも日々のケアの中で、入居者の笑顔を引き出す接し方を促す「笑顔と元気の継続」は職員の意識に根付いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで行っている行事に近隣の方に声をかけるようにし、招待している。また、職員が出勤退勤時などこちらから声をかけるように努めている。	ホーム主催の敬老会には、地域のボランティアや住民が来訪し、手遊びや歌の身振りなどを一緒に楽しんだ。地区の境内で開催される夏祭りに参加したり、子ども神輿を迎えるなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症のケアについて日常的な事例を用いて説明を行い理解の浸透に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの日々の取り組みの状況や対応を報告し理解してもらうと共に、話し合いや助言を頂いている。	目標達成計画に掲げた「開催数を増やす」ことについて、メンバーの都合がつかないことを理由に達成には至らなかった。2回の会議の中では、防災に関する意識の重要性や点検の必要性など活発な提言があった。	記録から有意義な会議になっているのが分かる。構成員を増やしたり、開催を定期化して都合をつけ易くするなどの工夫をして、開催につなげるよう取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町の包括支援センターの職員に参加して頂く中で、助言を頂いている。また、献立表を年に1~2回町の栄養士の方に提出しコメントを頂いている。	包括支援センターが開催する、ケアマネジャー研修に参加している。栄養士から、漬物を添えてはどうか・乳製品を摂るように等の助言があった。当調査に同席した町職員からホームの現況などを聞くことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関などの施錠は日中はせず、人が通るとチャイムが鳴るシステムがあり、利用者様が外に出た場合は付き添うケアを行うように努めている。	夜間の玄関は、センサーで安全を確保している。精神的に落ち着きがなくなり始終外へ出たがる入居者について医師の処方があったが、職員による見守りや寄り添うケアによって、本人の尊厳を保つ対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の支援の中で職員間で虐待になっていないのかを検討しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルを作成しいつでも確認できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、十分な説明の元に同意を得ている。また疑問や不安なことに対しても分かりやすく説明し理解してもらえるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望、苦情についての受付は重要事項説明書に記載しており、入所時に説明をしている。また普段からコミュニケーションを大切にし面会時に対応した職員より、意見や要望を聞くように心懸けている。	家族は毎月の料金納入に来訪する。その際は、介護日誌を見せながら日頃の様子を伝えている。家族は、それらの会話の中で入居者の変化を理解したり、感想を述べるなどしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや、会話の中から意見を交換している。	チームケアの実践を意識しており、入居者に合った排泄の仕方や本人の能力にあった着脱支援など、日々の統一したケアについての提案が多く、その都度話し合いより良いケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の労務状況を把握し行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望を確認しながら実行している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	都合がつく限り交流するように努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員が必ず直接面会を行いご本人、ご家族、関係者の方よりお話を伺っている。また入所前にホームの見学を可能な限りお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの困っている事、不安に思っている事など何でも気軽に話して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意思を確認した上で実行するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	仕事、家族、生活歴など理解した上で、利用者様の言葉を傾聴したことで学んだり、より良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の体調の変化などが生じた場合などご家族に連絡をしている。また本人と家族の関係維持の為、月に1度は面会に来て頂けるように協力をもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時には馴染みのもの、大切にしているものを持参してもらうようお願いしている。また友人、知人の方が面会に来られるときは、ご本人、ご家族に確認し面会して頂いている。	入居者の66パーセントが入居1年未満であったことから、家族や病院から従前の様子を聞いて反映させることが多かった。入居時には、職員に馴染んでもらう対応と同時に、家族との関係を取り持つ支援も行なった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士のコミュニケーションを促したり、行事やレクリエーションを通じ支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人、ご家族の意思を確認した上で支援するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、ご家族、関係者の方から希望、意向を聴き取り意見を尊重しながら本人の些細な訴えを見逃すことのないよう気配りする	入居者の視線や表情、雰囲気などを察知して、話を聴き「生家に帰りたい」などの思いを知った。つねる・すねるなどの行為で気持ちを表現する入居者もおり、それぞれの行為の意味について職員は理解し対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族よりこれまでの生活の状況、経歴や生活歴を理解したうえでの対応を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当を決め一人一人の状況を常に把握して、申し送りノート等で変化を見逃すことのないよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望や意向を確認して現状把握したうえで意見を聴取してサービスが適切であるか検討する。月1回モニタリングをして介護計画に反映する。	介護計画作成の会議において、家族・担当職員が同席して検討している。「安心して暮らせればいい」との家族の意向に、ホームを信頼して任せているのが分かる。普通に暮らせるよう適切な支援を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、介護記録、申し送りノートで利用者の状況を確認している。状況が変化した時は、再アセスメントを行い見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて事業所内のヘルパーの通院介助やデイサービスでの催物の合同参加、行事の時はボランティアの要請を行いサービスの充実化を計る		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の夏祭りに区長より招待され利用者と共に参加している。また、地区の子供みこしの来所が毎年ホームまで来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を希望される方にはご家族協力の元受診を行っている。また、協力医を希望される方は、薬剤情報などを頂き支援している。	内科と歯科の往診がそれぞれ月2回ある。受診時は職員が入居者の状況を伝え、医師の指示などを「往診記録」に残し、職員間で共有している。変化時は病院に電話で相談し、折り返しの返答をもらい対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医により月2回の往診を行い、利用者様の状況を明確に伝え相談している。急変時には電話にて指示をもらっている。また、かかりつけ医の方は月に1回本人と共に受診してもらえるようにご家族に協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、医療機関と連携をとりあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や看取りの指針を文書化し掲示しホームでの出来ない部分を説明している。	前回に目標達成計画に掲げた「終末期の対応を明確にする」への取り組みは、「終末期ケア対応指針」として文書化し、目標を達成した。指針の中では、目的や基本方針を表し、昨年以降入居した方から、同意を得て確認を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し使用方法を職員が理解している。マニュアルを作成し状況に応じ対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(内1回は消防署立会い)避難訓練を近隣の方の協力のもと行っている。適切な避難誘導が出来るように避難経路などを確認している。また、デいに発電機、非常食を常備し、ホームにはスプリンクラーの設置を行う予定である。	運営推進会議で出された「漏電防止のコンセント点検」や「初期消火の重要性」「通報装置の取り扱い」等の意見を訓練に取り入れて、課題の解消に取り組んだ。近隣住民は、避難口から避難場所までの誘導にあたった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者のプライバシーに配慮しその方の人格を尊重したうえ声掛け会話に努めている。記録等の個人情報書類の保管は外部者から見えないように対応している。	いつでも気に掛けている職員が居る事を感じてもらえるよう、一人ひとりの入居者に対して、用事がなくても声掛けするよう心掛けている。夜間にじっくりと昔話を聴くことが、信頼関係を深めるよい機会になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り言葉で伝えられる様会話内容に配慮し、言葉に出来ない方に対しては、身振り、態度で自己決定が出来るよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の状況に応じて、個々の気持ちや体調を考慮した上で、出来る限り対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合った身だしなみを季節感を配慮し支援している。髪の設定散髪も本人が直接美容師の方に伝えられる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な利用者様には毎食時、職員と共に配膳を行っている。またホールにて食材の準備を手伝っていただくこともある。行事の際は業者に注文することもある。また嚥下状態などに配慮し個々の状態に合わせている。	外部(業者)から購入するのは、クリスマス会や誕生会のケーキや敬老会等の料理である。外注の時、「これより、いつものがいい」と入居者から言われたことがあり、職員の手料理と旬の物が喜ばれているのが分かる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を作る際はバランス彩に配慮し個々の状態に合わせて対応している。年に1~2回実際に食べた献立表を町の栄養士の方に提出し専門的な意見を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の歯磨き、義歯のケアを行っている。歩行が困難な方については職員が歯磨きセットを準備しケアを支援している。また今年5月より歯科往診を月に2回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成しパターンや習慣を考慮し支援するように努めている。一人一人の排泄リズムを把握し排泄誘導することで失禁を減らせるようにしている。トイレ誘導を促すことで下肢の筋力を落とさないように支援している。	各居室の家具調ポータブルトイレで用を足している。介助の必要な人には「手伝わせていただけますか」と、自尊心を傷付けない工夫をしている。落ち着きがなくなったり、歩き回るなどのサインを察知して誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便は排泄表にて確認し排便がみられない時は水分量や運動などに配慮している。必要に応じ病院から下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックによる身体状況の把握後、週に2～3回行っている。希望に添った環境にし支援している。夏場の汗をかきやすい時は利用者の希望があればシャワー浴にて対応した。	バイタルチェックは、グラフにして管理しており、変化が一目で分かる。これは、変化時に医師に提出したり体重変化による摂取調整などに有効である。湯船で歌う、静かに入るなど、各々が好きなように入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、短時間の昼寝やホールで過ごす時間など一人一人に合った支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを作成しいつでも確認できるようにしている。また呑み込みが困難な方に対してはトロミを使用し安全に呑み込めるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の意見、体調に考慮し洗濯ものたたみ、洗濯干し、ほうき掃除、花のみずやり、草取りなど職員と共に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の体調に合わせて、ヘルパー・ご家族に協力を得ながら対応している。移動が難しい利用者については外の景色がみやすい居室にし天気の良い日は窓を空ける等し対応している。	自立歩行の可能な入居者は、散歩や洗濯物干しで外に出ることがある。数名の寝たきり状態があり、遠出やドライブは人手や手段などで難しい。家族の協力を得て、通院がてら外食を楽しむ入居者も居る。車で10分ほどのデイサービスのイベントに行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	対応していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族の意見を確認しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるよう置物、花またポランティアの作品など飾り居心地よく過ごせるように努めている。	ホールは、風船バレーや塗り絵、ラジオ体操などの活動や、リンゴの皮むきや食材の下拵えをするなど、皆が集う場になっている。窓からの陽射しに映えるコスモスが季節を感じさせる。居室前のサンルームでは日光浴が出来る。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブル、イスを設置しその人の性格等を配慮しながら対応している。またホールから隣の管理室にはソファを置いて利用者さまが自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して生活が出来るように使いなれた家具、寝具類、テレビなどを持参してもらっている。居室内は本人が使いやすいように配置している。	一般住宅であったのを利用して造作したもので、襖や押入れの風情はそのままに感じられる。まるで自宅での自室のようである。夜勤者は、静寂な夜間の物音に対して、すぐに対処できるよう留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態にあわせベッドの高さなど自立にて起き上がりが楽なように対応している。		